

市のお目当て

私の住んでいた北タイの山地民ラフの村の近くには、火曜日に定期市がやってくる。曜日ごとに各町を回っている巡回定期市だ。市では、平地民の北タイ人だけでなく、いろいろな山地民の言葉や衣装が行き交っている。バイクを持っていった私は、よくラフのおばさんたちの足とつは使われていた。彼女たちのお目当てのひとつはテドゥである。市でラフの女たちは、時間をかけてテドゥを選んでいく。

「テドゥ」というのは、長方形の布の二辺を縫い合わせて筒状にした腰衣（巻きスカート）のことだ。安物から高級品までテドゥの値段はさまざまだが、定期市では、プリント・パティツクのプリントがずれたりした不完全なものもあり、三枚一〇〇バーツ（約三〇〇円）とか四枚一〇〇バーツといった大安値である。目的や



定期市でテドゥを選ぶラフのおばさん

用途ごとに何枚ものテドゥを探す女性もいる。このテドゥは、よそ者にはなにかと気になる存在だ。

工場製のシャツやパンツが安く手に入る現在でも、村ではけっこうテドゥを見かける。村のラフの女性はいたいいパンツや洋服のスカートよりもテドゥを着ている。若い人でも結構そうだ。いろいろな色、いろいろな柄のテドゥを着る。普段はほろのテドゥを着ていても、何かの時にはきれいなテドゥ、大事にしまっていたテドゥを出して着る。正月祭の踊りの輪では、ラフの伝統柄のテドゥが並んで、暗れやかな雰囲気を感じさせる。テドゥは大事なおしゃれの道具でもある。

テドゥを着る時には、その筒の中に入り込み、腰のところが布の余分な部分をたくし込んで固定する。人びとは、姿勢を変える時などに、テドゥを直す。ベルトもしないのに、ほどけるこ



記念撮影をするときさまざまな柄のテドゥが並ぶ

とはほとんどなく、けっこう楽に動いているように見える。テドゥを着て農作業だつてやるのだから大したものである。お金をたくし込んで、ポケットのように使うこともある。考えてみれば、ラフの女の足の脛から上は、ほとんどいつもテドゥにくるまれている。

テドゥを着ている女は、その下が見えないように、普段から気をつけている。昔の人はテドゥの下に下着なんかつけてなかったし、今でも年配の人にはそういう人が多い。しゃがむときには、両足の間にあるテドゥの端を手で押さえながら足を曲げる。いかにも大変そうだが、彼女らにとっては無意識の身体感覚なのだろう。

女たちは水浴びするときに、テドゥを着けたまま。おばさんたちならトップレスなどお構いなしだが、腰に巻かれたテドゥがはずされることはない。テドゥの下で石鹸を体に塗って流して水浴びを終え、そのまま新しいテドゥを



儀礼での風景。テドゥでの座り方は微妙

頭から降りて着ける。古い濡れたテドゥは足下に落とし、その場ですすいで、叩いて、絞って洗濯してしまふ。

下着でもあり、おしゃれ着でも…

女物のテドゥが男の頭の近くや上にあるのはとんでもないこととされる。日本でも下着を人の頭の近くなんか干しておけば、失礼になる。テドゥは半分下着なのだろうか。ただ、ラフでは、女ならともかく、男の頭の近くに女のテドゥがあるなんて、という調子だった。男尊女卑といえは、そうなのかもしれない。

若い人にはいなくても、年配のラフの女性が、ふと突然立ち止まったかと思うと、テドゥの裾をひざのちよつと上まであげて、立ったまま、微妙に前にかがむことがある。次に聞こえてくるのは「ジャー」という滴のよな音。この微妙な前かがみは、テドゥをぬ



田植えのときにもテドゥで。こんなときしか隠し見えない

らすずに立小便をする技なのだ。「あれには面白いよねー」。思いがけず同じ体験をした日本人の友人も、私と同じ感想を吐いた。

私がクリスチャンの村に住んでいたときのホストファミリーのお母さん（四〇歳代）は、テドゥの下に下着のパンツをはいていた。これだと立小便は出来ない。家の外に出ていって用を足すときには、テドゥをほどいて、しゃがみこんでいた。しゃがみこんだ体の周りにかかげたテドゥが、円筒形の覆いとなり、体を隠す。お母さんは用を足すと立ち上がって再びテドゥを巻く。

トイレがある家でも、小の方は外でやることが多い。自然の中でやる小便には開放感がある。夜に小便に出たら夜空には満天の星が、と誰かが書いていたのを思い出す。山の村に長く住んで屋外で小便する自由に慣れてしまうと、町に戻ったときつらい。小便ごときのために、狭苦しく湿った閉塞空間に入らなければならない



正月祭のはなやかな雰囲気を感じさせる踊りの輪

ちよつと 気になる ラフの腰衣

と、みじめなようなみすばらしいような気持ちになる。

ラフの女性にとって、テドゥは下着でもありおしゃれでもある。汚れともなり美しさともなる。テドゥがなにかと気にかかる存在である訳は、そのあたりにあるのだろう。

見ごろ・
食べごろ
人類学

西本 陽一
(にしもと よういち)
金沢大学講師